

2024 年度第 5 回価格審査会の開催について

2024 年度 5 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2024 年 8 月 15 日(金) 10:00～12:00		
場 所	本部 6 F 大会議室		
委 員	松田 寛志	日本工営株式会社 流域水管理事業本部 本部長	
	栞原 圭一	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長	
	鈴木 由香	株式会社日本設計 コスト設計部長	
	辻 保人	一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長	
	星野 正	東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)	
当 会	共通資材調査部	部長：大澤 勝、次長：小林 法雅	
	建築調査部	部長：高橋 俊一、次長：岩井 卓矢	
	監査審査室	室長：黒澤 昭浩	
	調査統括部(事務局)	部長：柴尾 治、課長：本間 哲	

☐2024 年度第 4 回価格審査会議事録(案) 確認

☐2024 年度第 5 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1. 「建設物価」9月号、「Web 建設物価」9月号の価格動向	
・ 価格が上伸した資材（工事費）	
【Web 建設物価】	
レディーミクストコンクリート（小樽市ほか47都市）、道路用砕石類（弘前市ほか74都市）、再生砕石類（秋田市ほか10都市）、PHCパイプ（徳島市ほか3都市）、アスファルト混合物（青森市ほか32都市）、ストレータスファルト（全国）、コンクリート積みブロック（滑面）（盛岡市ほか5都市）、	
建築用コンクリートブロック（大阪市ほか3都市）、配管用ステンレス鋼鋼管（溶接管）（北海道地区ほか8都市）ほか	
・ 価格が下落した資材（工事費）	
【Web 建設物価】	
異形棒鋼（福岡市ほか6都市）、コンクリート型枠用合板（那覇市）、構造用合板— J A S 品—（盛岡市ほか13都市）、6 0 0 V ビニル絶縁電線（I V）（北海道地区ほか9都市）、	
燃料油（札幌市ほか62都市）、鉄スクラップ（全国）、非鉄スクラップ（全国）ほか	
2. 比較資料	
・ 企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明	

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	異形棒鋼や H 形鋼等の鋼材における市況コメントで、目先の動向が「横ばい」や「弱含み」となっているが、鉄鋼市況が全体的に弱くなってきているのか。	鋼材市況の全般的な動向として、メーカーは電力や輸送のコスト上昇を受けて値上げを表明していたが、スクラップ価格の急落を受けて、値上げ交渉が難航している状況。メーカーの意向に反して、値下げ要求の高まりから価格競争が発生し弱含みとなった。
質問 2	東京地区のレディーミクストコンクリートで、今年度から契約形態の見直しがあったが、その後の状況はどうなっているか。	東京 17 区では、2024 年 4 月から従来の契約ベースから出荷ベースによる契約方式を採用した。生コン協組からの事前説明もあり、4 月以降は、出荷ベースでの取引が浸透している状況。
質問 3	電線の価格が銅建値と連動し始めているが、一時の不足感は解消されたのか。	電線は、一時生産が間に合わずひっ迫感があったが、現在は緩やかではあるが改善されつつある。メーカーによって概算納期は異なるが、低圧で 1～3 カ月、高圧で 6 カ月前後と時間はかかるものの、期間さえ確保できれば供給に影響はない、と聞いている。
質問 4	電線の市況コメントについて、8 月上旬に相場が急落したとあるが、その理由は何か。	銅建値が急落した背景は、中国経済の停滞感に加えて米国の金利や円高の影響を受けたことによるものである。
質問 5	電線の変動率について、主要建設資材（10 品目）の需給・価格動向の東京地区では約 10% の下落だが、入稿情報表の各地区では 0.8～11.7% の下落となっている。変動率に差があるのはなぜか。	電線の種類に応じて銅の使用量が異なるため、変動率に差が生じている。電線は太物になるほど銅の使用量が多いため変動幅が大きくなっている。
質問 6	アスファルト混合物の値上がりしている地区が、青森地区に集中しているが、その理由は何か。	原材料のストレートアスファルトや輸送コストの値上がりを背景に全国的に値上がりしているなかで、地区ごとに異なる需給や交渉進捗の違いであり、特に青森特有の事情があるわけではない。
質問 7	「再生アスファルト混合物」東京 14 区の市況コメントに「再生骨材混入問題に対する不信感から需要家との交渉が進捗していない」とあるが、いわゆる再生骨材混入問題がメーカーと需要家の交渉にどのような影響を与えているのか状況を教えてほしい。	メーカーは、製品の値上げ交渉よりも、再生骨材混入問題に対する原因や再発防止策の説明等を最優先としているため、値上げ交渉が進捗していないという状況である。

質問 8	「異形棒鋼」と「ねじ節鉄筋」が九州地区で値下がりしており、補足コメントに「販売店間の受注競争が激化し、下落」とある。先月は同じ九州地区で「輸送コストの増加に伴うメーカーの値上げが浸透し、上伸」となっている。先月の値上げの影響により今月に需要低下が発生し受注競争が激化したということか。	先月の値上がりは、運搬コスト上伸の影響を受けたメーカーが「ねじ節鉄筋」の一部規格で行った値上げが浸透した結果であり、全体需要に対する影響は限定的である。今月の値下がりには、それ以前から継続している需要低迷による影響で、販売店間の競争が激化したことによるものである。
質問 9	「機械構造用炭素鋼鋼管」の補足コメントに「コスト増を背景とする流通筋の値上げ」と記載がある。ここで示している流通筋で発生しているコストとはどのようなコストか。	流通のコストは全般的に輸送費の割合が大きくなる傾向にあるため、主に輸送コストを指している。加えて「機械構造用炭素鋼鋼管」は、比較的流通量が限られる鋼材であるため、倉庫費や人件費等の在庫コストの増加も影響している。
質問 10	ステンレス鋼が値上がりしているなか、原材料となる非鉄スクラップが下落している。この市況の違いは、タイムラグによるものか。	ステンレス鋼と非鉄スクラップの市況の違いは、タイムラグが原因である。今回ステンレス鋼は、原材料となるニッケルの相場が4月から6月に3カ月連続で値上がりしたことで、メーカー各社は販売価格を引き上げ、それが浸透した。一方、非鉄スクラップは、買い取り業者が直近のニッケル相場の下落を受けて購入価格に反映し、下落した。
質問 11	兵庫地区の複数都市で骨材価格が2カ月連続で上伸している。どのような背景があるのか。	メーカーの値上げ交渉が、品種により段階的に進展したことで2カ月連続して上伸した。
質問 12	近畿地区の骨材が、他地区と比較して変動額が大きくなっているのはなぜか。	近畿地区の骨材は、レディーミクストコンクリート価格が昨年度大幅に値上がりしたことに伴い、原材料となる骨材の値上げを買い手側となるレディーミクストコンクリートメーカーが受け入れやすい環境にあった。特に砂は、持続可能な安定調達を買い手側が優先したことで大幅な上伸となった。
質問 13	気象庁が初の「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」を発表したが、この発表により、防災関連資材などをストックするような動きはあったのか。	今回の注意報発表により、資材をストックするという動きは見受けられなかった。ただし、備えという点では「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」にて示された方針に沿って、特定の防災関連資材の需要が増加することがあるので引き続き注視していきたい。
審議結果	「建設物価」9月号、「Web 建設物価」9月号の価格動向に問題はなかった。	